

1年道德通信

第21号

第21回『仏の銀蔵』

第21回目の道德では、『仏の銀蔵』というお話をしました。昔、高利貸しの銀蔵は、法外な利子で金を貸して、強引に人々から取り立てていました。ある日、銀蔵が持っていた証文のつづりを、カラスが持って行ってしまいます。証文がないと取り立てができず困っていたところ、寺の賽銭箱に20両入れれば証文が見つかるという手紙が届きます。銀蔵はその通りにしましたが、証文は見つからず、20両は寺の賽銭として扱われてしまいます。金がなくなって、だんだん生活が苦しくなった銀蔵に、証文がないのに、「貧しいが、盗人にはなりたくない」「お天道さまが見ている」と言って、人々は借金を返し始めました。それを聞いて銀蔵は心を入れ替え、二度と高い利子を取るようなことはありませんでした。近世を舞台にした高利貸しの男と金銭を借りている人々の物語を通して、法やきまりを守る心について考えました。

みんなの意見

村人たちは、どうして証文もないのに銀蔵にお金を返したのだろうか。

- ・高い利子をつけられるのは嫌だけど、借りた物を返さないのはどろぼうと同じで、どろぼうにはなりたくないし、借りた自分に責任があるから。
- ・借金をしている人達はお金が無い気持ちを分かっている人が多いから、銀蔵も同じようになって、こういう気持ちだったんだと少しは分かってほしかったから。
- ・銀蔵みたいな意地悪になりたくないから。
- ・自分が銀蔵の立場になった時に、返してもらえないと嫌だなと思うから。
- ・借りたままはさすがにダメだと思った。元々は銀蔵のお金だから。

今日の授業で学んだことや考えたこと。

- ・人と人が互いに相手のことを思いやるために、ルールというのは大事だと思った。
- ・きまりがなかったらずっと変な争いが起きるし、それを守るためにきまりがあるからルールは大切だと思った。
- ・他の人のためにも、自分のためにも、「きまり」は守るものだと思う。きまりを守るということは、生きることの義務だと思う。
- ・「誰かに見られなかったらいいや」「うそをついてもいいや」など、自分に対して甘い考えをしてはいけなしいと思いました。

法やきまりは何のためにあるのだろうか？

誰のためのものであるのだろうか？